熊大通信

KUMADAI TSUSHIN

Nov.2001

Vol.3

特集

クマモトプロジェクトXを追う

～大学と企業が連携して新たな産業と雇用を生み出す～

CONTENTS

〈目次〉

知と社会 Vol.3

クマモトプロジェクトXを追う

～大学と企業が連携して新たな産業と雇用を生み出す～

P.1

熊本大学に聞いてみたい!!

～“教師”になりたい～
熊本学園大学付属高等学校／馬場健さん･田上恵美さん
熊本北高等学校／末藤翔太さん･工藤純子さん

P.6

熊大群像

「子どもたちに夢を与え、子どもたちから夢をもらう」
熊本大学人形劇サークル　青い鳥

P.8

OB･OG訪問

「紛争地帯へ向かう原動力、それは多分、“命の実感”」
熊本赤十字病院･心臓血管外科医　宮田　昭さん

P.10

国際交流事情 ～国際総合大学としての熊本大学～

～熊本で日本語と日本文化を学ぶ～
アメリカ･モンタナ州出身　メーガン･ヒュースビーさん

P.12

熊大INFORMATION

P.14

知と社会

Vol.3

クマモトプロジェクトXを追う

～大学と企業が連携して新たな産業と雇用を生み出す～

熊大教授らVB設立
作製技術を開発

県内大学の研究事業化
「TLO計画」を国承認

左／熊本日日新聞8月31日付
右／日本経済新聞10月2日付

野依良治教授が、昨年の白川英樹博士に続いてノーベル賞を受賞しました。日本人としては2年連続の受賞となる快挙です。バイオテクノロジー、超伝導、材料工学、情報技術…。このところ、日本の研究成果がきっかけとなって、世界規模での研究開発が進むという例も増えています。一方で、日本の研究がこれだけ優れているわりには、必ずしも新しい産業の創出や雇用、国際競争力に結びついていないのではないかという声もあるようです。産学連携の推進を図る熊本大学の様子をレポートします。

夢と情熱の産学連携プロジェクト

NHKのテレビ番組『プロジェクトX～挑戦者たち』。今や構造不況に沈みこむ日本経済とその戦士たちに、熱いエールを送る内容が大いに受けているようです。

成功の影に“プロジェクト”あり。一人一人の力量をチームワークで花開かせる。産学連携はいわば現代のプロジェクトXです。頭脳の煌きがビジネスを飛躍させ、新たな産業と雇用を生み出す。自らの先見性を信じて挑戦する。それは、夢と情熱の物語です。そのような視点でとらえると、これまでとは違った産学連携が見えてきそうです。熊本大学の産学連携サクセスストーリーを2つご紹介します。

SUCCESS STORY 1

医学部に泊まり込んでビジネスチャンスを探す企業家

～株式会社トランスジェニック 井出 剛社長～

トランスジェニックは、熊本大学医学部や発生医学研究センターの抗体研究、遺伝子研究を基盤技術として、大規模抗体作製・販売、大規模遺伝子破壊マウス作製・遺伝子機能解析を行っているベンチャー企業です。産学官一体の事業展開で急成長をとげ、今年度中に株式を新興市場に公開する予定です。

学生時代は、政治学者をめざしていた井出社長でしたが、1987年、父親が熊本県宇土市に創設した国内最大の医薬品安全性試験会社パナファーム・ラボラトリーズに入社。それ以来、熊本大学医学部とのつながりができました。その後会社が傾き他社に買収されてしまい、井出社長は独立します。そして医学部の研究室に日夜通い詰め、「まるで居候のような生活」を送りながら、新たなビジネスチャンスを探す日々が続きました。「熊大医学部には若手で優秀な先生方がたくさんおられます。大学には、まだまだ知られざる貴重な技術資源が眠っていることを実感しました」。医学部の基礎研究と再起をかけた起業家が手を結んだ、新たなプロジェクトの誕生でした。

1997年5月、井出社長は5人の仲間と共に「株式会社クマモト抗体研究所」を設立します。医学部から技術導入した特異抗体作製技術を基盤として、全国の大学の新規発見有用タンパクの商品化、特許化を目的としたベンチャー企業でした。創業から数年を乗り切れたのは、産学官の連携があったからこそと井出社長は言います。「熊本テクノポリス財団（当時）の理解もあって、テクノリサーチパーク内の財団施設に入居することができましたし、研究室は熊本大学地域共同研究センターの一室を借りました。資金面では、自治体ベンチャーキャピタルである県起業化支援センターからの出資が大いに助かりました。熊本県のベンチャー育成への姿勢は、他県を圧倒していると感じました」。

1999年から、井出社長は熊本大学の山村研一教授の技術指導を受け、新たな共同研究に着手し

ます。抗体部門に加えて遺伝子操作マウス部門へ参入、社名も株式会社トランスジェニックと改めました。それ以後は、めきめきと業績を伸ばし、株式上場が見込めるまでに事業を拡大してきたのです。

才能に満ちたコーディネーターが必要

井出社長と医学部との関係は、居候先となった堀内正公教授との付き合いから始まりました。「ここには世界的レベルの研究成果が眠っている！」と目を輝かせる若き井出社長を見て、堀内教授は、「こいつと一緒に夢を見てみようか」と思ったと振り返ります。「この抗体、商品化したらどうですか」という井出社長の提案から始まり、やがて世界各地から注文が殺到するようになった共同開発。それは2人の異質な個性の出会いから始まったのです。「彼は文系の人間で、私たち理系とは発想も思考方法も全く違う。それが、かえって良い結果を生んだのかもしれませんね」。理系の研※究シーズを文系の一般的なニーズへと“翻訳”していく。それを成し遂げたのが、井出社長と堀内教授とのユニークな組み合わせでした。

専門家の言葉を、ビジネスの言葉に変換するコーディネーターが必要だったのです。「今後、新たなベンチャーが育っていくためには、単に専門の研究者だけではダメ、営業に優れたビジネスマンだけでもダメ。両者をうまく結び付けて、1＋1を10にも100にもできるような才能に満ちたコーディネーターの存在がポイントです」と堀内教授は力説します。

熊大教授VB設立

2000年4月から、国立大学の教官が民間企業の役員を兼務することが可能になりました。そして、今年10月1日、発生医学研究センターの山村研一教授が役員を務める「株式会社ユージーン」が誕生しました。「大学での研究成果を実現するためには、結局自分が腰を上げるしかないと思いまして」。社名のユー（U）は、遺伝子トラップベクターが遺伝子を運搬するありさまを鵜飼になぞらえたもの。科学技術振興事業団からのプレベンチャー資金を得て、約2年間の準備期間を経ての決断でした。ゲノム解析手法として注目される遺伝子改変マウス作製技術の開発や、遺伝子情報のデータベース化事業にあたります。社長には井出博之氏が就任。そうです、トランスジェニックの井出社長のお父様です。不思議な縁を感じます。

ヒトゲノム解析の分野では現在、分子生物学が主流となっています。山村教授らの遺伝子の研究は、いわば脇に追いやられた格好となっています。「そうした時流にNOの声を上げ、自らの研究の重要性をきちんと表明していきたい。学者生命をかけて」、と山村教授は産学連携プロジェクトに静かな熱意を燃やしています。

産学が連携して、大学の中で眠っていた研究を世に問う。その背景には、井出社長のような知的好奇心に満ちた起業家精神と共に、研究者の、自らの研究に対する信念と熱い思いがあることも忘れるわけにはいきません。

※…研究シーズ＝SEEDS（種）から研究の種。本文中では、大学の研究成果を指す。
問題の解決方法の要求（ニーズ）と大学の研究成果（シーズ）のマッチングが産学連携の一般的な在り方であったが、近年では、ニーズに基づいたシーズの開発やシーズとシーズのマッチングなど幅広い産学連携が検討されている。

KENICHI YAMAMURA

HIROSHI KUBOTA

SUCCESS STORY 2

大学がベンチャー企業を呼び込む

～久保田研究室と有限会社熊本テクノロジー～

熊本大学では新たに、大学構内に「サテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリー」を開設しました。これは大学院生を中心に新しいプロジェクトを募集して、学内からベンチャーを育成しようというものです。また、企業の研究所を誘致したり、TLOを活用して大学の施設を無償提供しようという取り組みも大学内で活発化しています。国立大学の独立行政法人化に備えて、企業との連携を強化し、社会に貢献できる研究成果をより多く生み出す体制作りをめざすもので、こうした動きは今後さらに加速することが予想されます。

半導体分野で、熊本大学が核となって進めている40億円規模の国家プロジェクトがあります。その中心人物でもある衝撃・極限環境研究センターの久保田弘教授は、研究開発でチームワークが組める企業を探して全国行脚を続けました。「とにかく足でかせがないと。地元企業に限らず、共にがんばれる企業であればOK」。そして出会ったのが「東京テクノロジー」という従業員10人足らずの小さなベンチャー企業でした。「国のビッグプロジェクトとは別に、地方ではより実験的なカウンター・プロジェクトが可能です。それをやるには熊本は最適な土地です」。すでに熊本には半導体工場や関連産業の集積がある。ところが、地元の大学や研究機関との連携はまだまだで、「“シリコン・アイランド”と呼ぶには企業と地域との関わりが薄い」のが現状です。「共同開発ができる企業を探して連れてくることで、地元の企業を元気づけることにもなる。熊本はまだまだ、自分たちが持っている財産を生かしきれていないと思う」と久保田教授。

久保田教授が声をかけた東京テクノロジーは、代表取締役の奥寺智氏と常務取締役の小坂光二氏が93年に設立。ナノ単位の超精密高速ステージの開発と製造を手がけるベンチャー企業です。熊本とは縁もゆかりもなかった2人ですが、「久保田先生と出会って、これはイケる！と感じました。熊本の開発環境の良さも決め手になりましたね」と小坂氏。2年前に熊本へやって来て、今は「熊本テクノロジー」として5人のスタッフです。「施設やスタッフなど、大学との共同開発には大きなメリットがあります。うちは久保田研究室と、相互に、スパイラルで伸びていきたい。どちらかが、どちらかにぶら下がるのではなく、対等の立場で研究開発を進めていくチームだと考えています」。

この秋から、小坂氏は大学院生として久保田研究室に通い始めています。近い将来、大学の中に共同研究所を作ろうという動きをにらんだもので、今後さらに両者の関係は深まりそうです。

地域や企業のよきパートナーとして

久保田教授は、ベンチャー企業と大学の研究室とが一緒に作り上げていくことが大切だと強調します。「大学の中に、まるで“宝の山”ように新事業のタネがゴロンと転がっている、なんていうのはナンセンスな話。共に問題意識を持って作り上げていくことこそ連携の基本です。大学の中のシーズと企業の中のシーズが出会って新たな産業を創出し、雇用を生み出していく。そんな“※シーズ・シーズ・マッチング”こそ、我々のめざすところです」。そして、世界水準をめざすとともに、アメリカのように大学からベンチャー企業が次々に産声を上げるような環境を作っていくことが、これから

熊本TLOって何だ？

2001年8月30日に承認され、動きだした「熊本TLO」。TLOとは、Technology Licensing Organization（技術移転機関）の略称。
大学等の研究成果を産業界へ移転して産業技術の向上や新産業の創出をしようというもので、研究者や大学にはロイヤルティの一部が還元される。研究者はそれを新たな研究費に充てることができる、いわば「知的創造サイクル」。

KOHJI KOSAKA

e-mail:ikuno@eecs.kumamoto-u.ac.jp
HIROYOSHI IKUNO

の大学には求められています。そのためには、共同研究・開発など産学官連携をさらに強化するとともに、TLOの活用をはじめ、特許などの知的財産権の活用につながる形で、研究開発から成果の移転・事業化をより重視した研究展開を進めていくことが必要です。

地域や企業から頼りにされる大学。そして、よりよきパートナーをめざして、これからの大学は、単に人的拠点にとどまらず、知識産業創出のための活力の源泉となることもまた、期待されているのです。

行政の役割は舞台作り

地域経済の発展にはベンチャー育成が不可欠です。井出社長は、「県やテクノ産業財団の理解があってここまでやってこれた」と熊本県のバックアップ体制を高く評価します。設立時に、起業化支援センターの担当として立ち会った高口義幸さん（現在、県工業振興課）は、「県はあくまでもサポート役です」と行政の役割を強調します。「土台としての舞台作りは行政がしっかりやります。それを上手く活用して、力を存分に発揮していただきたいと思っています」。

くまもとテクノ産業財団の産学連携グループ長である岩本卓也部長によれば、県内約30の支援機関の支援内容は、「経営支援」「人材育成」「販路開拓」「資金提供」「技術開発」「技術移転」「インキュベート」「情報提供」など多岐にわたります。総合的かつ一貫して支援できる体制整備に向け、テクノ産業財団を核に「くまもとプラットフォーム」を展開させています。

地元企業と一緒に

熊本大学でも、企業からの窓口となる「リエゾンオフィス」を設ける、専任教授をおく、シンポジウムを開き企業へ呼びかける、あちこち出向いて情報収集に努めるなど産学連携推進を図っています。

今後、産学連携を技術移転や利益につなげていくには、「産学連携の重要性を、研究者一人一人がしっかりと自覚し、一緒にやっていきましょうよ、という姿勢を企業にもっと見せることも必要だ」と、生野浩正地域共同研究センター長は力を込めます。そして「どうせこんなことはだめだろうと決めつけないで、小さなことでも熊本大学リエゾンオフィスや、私たちにメールを送ってみてください。必ずお返事しますよ」と企業へ熱いメッセージ。

■お問い合わせ
TEL 096-286-3311
URL http://www.kmt-ti.or.jp

産学連携専任の廣末英晴教授はいいます。「熊本大学の教官たちに聞くと、地元企業と一緒にやりたいという気持ちが強いんですよ。技術的には中央の企業の方が勝っていても、やはり同じ地元で一緒に頑張りたい気持ちはあるんです」と。

同じく専任教授の松下肇教授は、国立大学の独立行政法人化をにらみながら言います。「大学の教官が、従来の研究と教育だけではなく、社会貢献という新しい役割を担うことになったわけで、その表れが産学連携です。これからこの新たな役割をどう育てていけるのか、楽しみでもあり、責任の重さも実感しています」。

大学にとって新たな時代への布石となる産学連携プロジェクト。それは夢と情熱の物語。新しい、ドラマチックな物語がこれから大いに続くことを期待しています。

e-mail:hajime@kcr.kumamoto-u.ac.jp
HAJIME MATUSHITA

e-mail:hirosue@kcr.kumamoto-u.ac.jp
HIDEHARU HIROSUE

●熊本大学リエゾンオフィスへのお問い合わせ
TEL 096-342-3145/3146　FAX 096-342-3149
E-mail liaison@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL http://www.kumamoto-u.ac.jp/contents/JOINT/k-link/k-link.htm

熊本大学に聞いてみたい!!

～"教師"になりたい～

学校の先生といえば、小学校、中学校となじみの深い職業です。先生の影響で苦手科目が大好きになったとか、担任の先生がキライで学校がイヤになったとか、子どもたちにとって先生の影響はとても大きなものがあります。「聞いてみたいシリーズ」、今回は「教師になりたい」。教育学部をめざす高校生たちが、あこがれの教育学部を訪ねます。

Q 末藤　教師をめざす人に求められるものは何ですか?

A 木原　教育学部をめざす人たちには、何よりもまず「教師になりたい!」という情熱を持ってもらいたいですね。意欲的に、コツコツと目標に向かって進んで行く意志が必要です。ご存知のように、教育現場は今、多くの難しい問題を抱えています。単に勉強を教えるだけじゃなく、教師としての豊かな人間性やコミュニケーション能力が求められています。先生という職業は〝未来の人づくり〟です。子どもたちという未来を作り、育てていく気持ちを持って、教育現場をめざしてもらいたいですね。

Q 工藤　教育学部ではどんな勉強をするのですか?

A 木原　まず始めに、一般教育といって基礎的な学問のトレーニングを受けます。そして2年生になってから、専門科目がこれに加わってきます。専門課程では小学校、中学校、養護学校など、それぞれの課程に合わせた授業が細かく用意されています。受ける内容によって取得する免許状の種類も違ってきますから、将来の進路をよく考えて選ぶ必要があります。課程によっては、複数の免許を取ることもできます。たとえば、小学校教諭の免許と合わせて中学校教諭の免許も取れるといった具合です。

先輩の声も参考に。

Q 馬場　高校の授業とどんな違いがありますか?

A 木原　高校までは与えられた授業を受けるという姿勢だったと思いますが、大学では自分で主体的に選び取って、自ら学ぶということが重視されます。また、教育学部の場合は他の学部と違って、長期間の教育実習というものがあります。知っていますか?これはとても大切で、1ヵ月近く学校現場に出かけて行って、実際に子どもたちの前で授業をしたり、現場の先生たちから指導を受けたりします。学生にとってはなかなか大変ですが、この経験が、先生になってから大きな力となるのです。

Q 末藤　受験の2次試験に国語が加わったのはどうしてですか?

A 木原　みなさん、国語は得意ですか?アレ、首傾げてるね(笑)。先生になる

教育学部

(左)木原(きはら) 信市(しんいち)教授

(右)塚本(つかもと) 光夫(みつお)助教授

と毎日黒板に書いたり、子どもたちの作文を手直ししたりしなければならないでしょ。先生にとって大切な国語力が、最近落ちているという指摘があります。国語を受験科目に加えることで、国語、数学、英語力とバランスのとれた学生が来てくれることを期待しています。

Q 馬場　最近は採用試験が厳しくて教育学部を卒業しても教師になれない人が多いと聞いていますが、熊大の場合は合格率はどれくらいですか？

A 塚本　う～ん、ちょっとイタイ質問だねえ。今年は320人の学生が教育学部を卒業していきました。その内、教師になったのが約100人。ほぼ3分の1ですね。教員の採用数は各都道府県で決めるのですが、熊本県の場合も採用数はここ数年減ってきています。原因は少子化です。子どもの数が減れば、先生も必要なくなるわけです。ただし、将来的には採用数は上向きになるという予想があります。頑張って勉強すれば、決して悲観的になることはないと思います。

特別看護学科4年生の協力で実習を体験。

Q 田上　「生涯スポーツ福祉課程」について教えてください。

A 塚本　福祉というと高齢者や介護といったイメージが真っ先に思い浮かびますが、スポーツをして体力をつけたり、健康を維持したり体調を管理することも福祉の一環です。この課程には障害児教育なども含まれます。地域社会へのスポーツ振興や、野球肘などのスポーツ医学、スポーツ生理学、スポーツ心理学など、かなり幅広い勉強をするもので、全国の国立大学の中でも数少ない熊大ならではの特徴ある課程です。特別養護老人ホームなどでの実習もあります。福祉と健康、まさにこれからのテーマを学ぶ場というわけです。

教育学部の中にも、いろんな専門分野があって、卒業後も多彩な活躍の場があるんですよ。

■話を終えて…

特別看護学科4年生の協力のもと、実習体験もしてもらいました。多くの高校生を前に説明する機会はあっても、今回のような座談会形式は初めてでした。座談会は（高校生諸君が）少し堅くなったかなぁ…。

●今回の体験者

熊本学園大学付属高等学校3年生 **馬場（ばば） 健（たけし）さん**

「母親が学校関係なので、普段から話は聞いていましたが、今日また新しいことがいろいろとわかりました。小学校課程が第一志望で、子どもたちの気持ちがわかる教師になりたいです」

●今回の体験者

熊本学園大学付属高等学校3年生 **田上（たのうえ） 恵美（めぐみ）さん**

「スポーツが好きで、今は弓道をやっています。生涯スポーツ福祉課程を志望しているのですが、今日のお話を聞いて具体的なことがよくわかりました」

●今回の体験者

熊本北高等学校3年生 **末藤（すえふじ） 翔太（しょうた）さん**

「中学校の社会科が第一志望です。カリキュラムが思った以上にたくさんあるので大変そうだなあと感じました。もっと勉強を頑張らないと」

●今回の体験者

熊本北高等学校3年生 **工藤（くどう） 純子（じゅんこ）さん**

「中学校の数学が第一志望です。カリキュラムの内容を聞いて、それぞれの分野ごとに専門的な勉強がいろいろあって、実習なども楽しそうだなと思いました」

熊大群像

子どもたちに夢を与え、子どもたちから夢をもらう

熊本大学人形劇サークル 青い鳥

熊本大学にはたくさんの部会やサークル、愛好会・同好会があります。中でも長い歴史を持つのが「青い鳥」。地道な活動で知られるこの人形劇サークルは、今年で結成37年目を迎えます。OB・OGは約350人にのぼり、現在は教育学部を中心に25人の学生たちが活動しています。

先輩から後輩へ代々伝えられる人形劇の技

「青い鳥」は、学内のサークルとしては珍しく、学外での活動が中心です。小学生の子どもたちを対象に、県内各地の小学校や子ども会などで人形劇を上演します。

「毎年春に、今年はコレでいこうというメインの新作2本を決めて、それに1、2本の小品を組み合わせた上演計画を立てます」。会長の本田誠さん（教育学部3年）を中心に、作品はすべて部員たちのオリジナルです。その年の演目に合わせて、人形や小道具、大道具もすべて自分たちで。鉄パイプを組み合わせた舞台は、10年以上前から使っているものです。背景は古いシーツに絵の具で書き上げます。「ちょっと不細工でも、ぼくらは手作りにこだわってやっています。音声もマイクは使わずに肉声です。テレビやゲームにはないライブの臨場感を大切にしていきたいから」と。

「青い鳥」に特別な指導者はいません。人形の作り方から脚本、人形を扱う技術まで、すべて先輩から後輩への口伝。「自分たちが先輩から教わったことを

12月16日（日）、大江公民館にて定期公演を行う予定です。小学生を対象に人形劇や体を使ったゲームなど楽しい催し物があります。午前と午後の部の2回公演です。詳しいお問い合わせは096-346-6508／福元まで。

新入生に教えていくだけ。ずっとこのやり方で続けてきました」

もともと影絵芝居から始まったという活動は、「棒で操る人形劇をやっていた時期もあったようですが、ここ数年は現在のような腕で人形を動かすスタイルで定着しています」。人形は高さ50センチほど。持ち上げると意外な軽さです。「でもこれが2時間近くともなると、かなりこたえるんですよ（笑）」と部員たち。「人形遣いは、顔もその人形に似てくるって言われるんですけど…」。

チョビ髭の人形を扱う本田貴士さん（教育学部3年）はサークルの総務部長です。「人形になりきって劇の世界に没入しながら、頭半分はクールに全体の動きを読む」。これが、代々受け継がれてきた人形劇の極意です。

舞台に接する機会の少ない子どもたちに人形劇を楽しんでもらいたい

「青い鳥」では毎年夏休みに、県内各地の小学校を回っています。今年の巡回公演は天草下島。児童数の少ない学校がほとんどで、人形劇はもちろん、生の舞台に接するのも初めてという子どもばかり。「上演前のゲームや遊びのすべてが私たちの活動です。一緒にキャンプファイヤーや鬼ごっこをしたりします。子どもたちはすぐに打ち解けてくれて、ワーワー、キャーキャーにぎやかですよ」と渉外担当の福元祐貴子さん（文学部3年生）。

真夏の体育館公演は暑さとの戦い。地獄のような蒸し暑さです。それでも、「○○ちゃん、頑張れ！」「アッ、ソコに悪いやつがいるヨ」「負けるな～」と、人形劇の世界に入り込んで応援する子どもたちの声に元気づけられます。「子どもたちに夢を与えるだけじゃない。子どもたちからたくさんの夢をもらっているんです」と本田誠さんは強調します。

人形劇を通して、子どもたちから教えられることは少なくありません。「だから、ぼくらは決してボランティアじゃないんですよ」。

人形劇を通じて確かなメッセージを伝えたい

「青い鳥」の一貫したテーマは「子どもたちに夢を…」。この「…」の部分が毎年変わり、今年は「子どもに夢を与えよう、夢をもらおう！」。

部員たちが何よりも大切にしていることは、子どもたちの夢を壊したくないということです。「劇が始まったらぼくらの存在を消したい。人形たちが話し、笑い、踊っている。人形が生きていると子どもたちには感じてもらいたいのです」。舞台裏は極力見せず、自分たちも「何だか不思議なお兄さん、お姉さん」でいい。そして何よりも、「ぼくらの舞台から、他人への思いやりや優しさ、友情といったメッセージを子どもたちが受け取ってくれればうれしいです。ワンシーンでもいいから、心の片隅にずっと残っていてほしいなあ」。ただ楽しいだけじゃない。何かをきちんと伝えられる舞台を作っていきたい。それが「青い鳥」の願いです。

親から子へ世代を越えて語り継いでいくために

各地を巡回公演で回っていると、小学校の先生や保護者から声をかけられることがあります。「昔、“青い鳥”の公演を見ましたよ！」と。そんな時、部員たちはこのサークルの存在感を実感するといいます。「子ども連れで公演を見に来てくれる先輩たちもいます。いつまでも大切に思ってくれているんだなあって、感動します」。

毎年7月には、その年の新作をOB・OGにお披露目する恒例の内見会が開かれます。毎回、30人程が集まって、時には厳しい注文や意見、感想も出ます。濃密な先輩・後輩のつながりは今も健在です。

人形劇サークル「青い鳥」は、かつて子どもだったことを忘れない大人たちによって、今もしっかりと支えられ、受け継がれているのです。

OB・OG訪問

熊本赤十字病院 心臓血管外科医 宮田 昭さん

紛争地帯へ向かう原動力、それは多分、“命の実感”

世界を震撼させたニューヨーク・マンハッタンの世界貿易センタービル爆破事件。現場では数多くのレスキュー隊や医療チームが救援活動に奔走し、その様子はメディアを通じて広く報じられました。熊本赤十字病院で心臓血管外科医として働く宮田昭さんは、アフガニスタンやコソボ自治州、インドのクジャラート州など世界各地の紛争地帯や被災地で医療スタッフとして支援活動にあたってきました。宮田医師に国際医療救援の現場について、また大学で得たものについてお話をうかがいました。

大学時代は「医学部新聞」で“記者”活動

―医学部を選ばれたのは何か動機があったのですか？

宮田　よく、そういう質問を受けるのですが、はっきりした理由はないんです。かっこいいという単純な憧れでしょうか（笑）。サラリーマン家庭に育ち、医者という職業についてあまりイメージできないまま、医学部を受験し、大学に入って初めて、医者という仕事を真剣に考え始めました。外科系は手術で治療をするため、結果がよりはっきりと出る分野です。だからこそチャレンジしてみたいという思いがありました。

私たちの時代は、黒髪キャンパスのあちこちにまだ政治的な立看板が残っていました。学生運動がやっと収束に向かい始めた頃で、何となくみんな気が抜けて、ホッとした気分が漂っていましたね。私は新聞部で「医学部新聞」を作っていまして、それまでのカラーから、やや軟派なミニコミ系に方向転換したんです。お店紹介や、人気の女子学生インタビューなど、自分たちでは結構楽しんでやっていました。

いろんな出会いや感動が一生の財産に

―大学時代、特に思い出に残る出会いはありましたか？

宮田　英語の授業でポール・グリーシー先生と出会ったことは印象深いですね。みんなで英語の歌を歌ったり、その頃まだインターネットもない時代でしたから、先生から聞くアメリカの話がとても新鮮でした。グリーシー先生と一緒にツーリングに行ったことも楽しい思い出です。

教養部での江戸文学の講義は、まったくの専門外ですが、医学部以外の友人もできましたし、とても面白かったです。大学時代はあまり専門にこだわらず、幅広い知識と教養を身につけることが大事じゃないかなと思います。

（上）タリバンの負傷者を診察
（下）アフガニスタンで北部同盟の兵士に囲まれて

大学生の頃のいろんな出会いや感動が、その後の人格形成に大いに役立っていると実感します。

日赤の医療救援スタッフとしてアフガニスタン、コソボ自治州、インドへ

―宮田さんは心臓血管外科医として、また、日赤の国際医療救援活動のメンバーとしても活躍されていますね。

宮田　熊本赤十字病院で心臓血管外科医として働きながら、平成2年から2年間はブラジルの日本大使館に医療スタッフとして勤務しました。平成8年には、今まさにテロ事件で揺れるイスラム過激派の本拠地、アフガニスタンの難民キャンプに医療スタッフとして派遣されました。国際救援活動としてはこれが最初です。その後、平成10年に、同じアフガニスタンへ地震救援要員として、また翌年にはアルバニアのコソボ自治州でコソボ難民救援活動、今年1月から約1カ月間はインド西部で起きた大地震の被災者救済のためにインド・クジャラート州へ出向きました。

―宮田さんがそうした医療救援活動を始められたきっかけは何だったのですか？

宮田　特に使命感に燃えてとか、自分で志願して、というわけではないのですが、大学時代から海外での仕事に、漠然とですが興味を持っていたことは根底にあるかもしれません。「やってみないか？」と上司から声をかけられた時、きっと自分では意識しない内に「行きたい！やりたい！」という顔をしていたのでしょう（笑）。日赤という機関が、戦争や飢餓、災害時の救援活動を目的としたものですから、そこで働く以上は自分もそうした活動に携わるのは当然だという思いもありました。私は体を動かす仕事が好きなので、海外でのハードな仕事も苦にならないですね。

地雷を踏んで命を落とす子どもたち。

―海外での医療活動で、特に印象に残っている出来事はありますか？

宮田　現地の悲惨さ、凄まじさは、どれも決して忘れられません。私たちは戦争というと映画や小説のワンシーンといった印象しかありませんが、実際に体験する戦争は、悲惨で醜く、憎しみと悲しみに満ちています。

アフガニスタン国境の戦傷外科病院に勤務していた頃、12、13歳の少女が運び込まれてきました。その子は休戦中に外へ遊びに出かけていて、誤って地雷を踏んでしまったのです。父親に運ばれてきたその姿を見て、それまでかなり重症の負傷者も見慣れていたのですが、本当にショックを受けました。右手と顔面の肉が吹き飛ばされて両眼球は露出し、腹部が破れて腸がほとんど外に垂れ下がっていたのです。私は全身が怒りで爆発しそうになりました。「遊んでいた女の子までが、なぜこんな目に遭わなくちゃいけないんだ！」。激しい怒りで吐き気がしてきて、気が動転してしまったのです。そばにいた同僚のフィンランド人医師が、「落ち着け、ミヤタ！外科医としての自分を取り戻すんだ！助けることだけを考えろ!!」と言ってくれて、何とか自分をコントロールすることができました。逃げ出したい、もうイヤだ。そう思うことも度々ありますが、現地の惨状を目の前にすると踏み止まってしまいます。世界各地で紛争や災害が起こると、心はその現場へ向かっているのです。それは一体何なのだろうと自問してみたことがあるのですが、多分“命の実感”のようなものだろうと思うのです。戦争が終わって、必死に生き残ってきた人たちが復興のために立ち上がっていく。その喜びに満ちた笑顔を見るために、自分たちは働いているんだと。私たちは微力ですが、医療現場で少しでも明日のための手助けがしたい。そんな思いが、また、私を新たな紛争地へと向かわせるのでしょうね。

PROFILE

宮田　昭（みやた・あきら）
熊本赤十字病院
心臓血管外科副部長・国際医療救援副部長・腎センター

昭和31年	長崎市生まれ。
昭和57年	熊本大学医学部卒業。
昭和58年～	熊本赤十字病院心臓血管外科勤務。
平成2～4年	外務省在ブラジル日本国大使館一等書記官。
平成 8 年	アフガニスタン難民救援医療要員としてパキスタン・クエッタへ派遣。
平成10年	アフガニスタン地震救済事業医療要員としてアフガニスタン・イスラム国へ派遣。
平成11年	コソボ難民救済事業の医療要員としてアルバニア共和国・コソボ自治州へ派遣。
平成13年	インド西部地震被災者救援事業の医療要員としてインド西部クジャラート州へ派遣。

国際交流事情
～国際総合大学としての熊本大学～

～熊本で日本語と日本文化を学ぶ～

アメリカ・モンタナ州出身 メーガン・ヒュースビーさん

Megan Husby

熊本大学はモンタナ大学と留学生の相互交流を進めています。

今年9月まで熊本大学文学部で学んだモンタナ州出身のメーガン・ヒュースビーさんもそんな交換留学生の一人です。モンタナ大学に在学中から「ジャパン・クラブ」の部長をつとめるなど大の日本通。流暢な日本語を駆使して、熊本での学生生活をエンジョイしました。この1年間、熊本でどんな思い出を作り、熊本大学で何を学んだのでしょう。メーガンさんに話を聞きました。

モンタナ大学で熊本のことを知り、興味を持ちました

熊本大学文学部の日本語・日本文学研修生として1年間熊本で学生生活を送ったメーガンさん。熊本との出会いは、モンタナ大学時代のことでした。「それまで、クマモトってほとんど知らなかった。大学では日本からの留学生がたくさんいて、彼ら、彼女たちから熊本のことを聞いて、いつかは行ってみたいなって思うようになりました」。

ミズーラ市にあるモンタナ大学には“ジャパン・クラブ”というサークルがあって、地元の人たちや学生同士の交流を深めています。また、州都のヘレナ市には“クマモト・プラザ”があり、熊本の文化や観光を紹介し、モンタナと熊本との交流事業を進めているのです。

メーガンさんはモンタナ大学の1年生の頃から日本語を学び始め、夏目漱石や芥川龍之介の作品にも触れて、もっと深く日本文化を理解したいと思うようになったと言います。「日本語の面白さにすっかりハマってしまったんですね（笑）」。

先生からも勧められ、日本への留学を決意しました。最初は働きながら学ぶインターンシップに参加し、福島のホテル・レストランで1年間、働きながら日本語を学びました。この時の現場でのトレーニングが、メーガンさんの語学力をより豊かなものにし、飛躍的に上達させることになりました。

抜群の語学力とセンスの持ち主は、「日本人以上に日本的」

その後、交換留学生として念願の熊本大学へ。大学では文学部に席を置きながら、各学部のゼミや講義を渡り歩きました。「おもしろそうだなと思ったら、とにかく行って話を聞いてみたくなるんです」。興味のあるテーマや講座があれば、専門課程の講義やゼミにも積極的に参加しました。

メーガンさんを指導する法学部の岩岡教授は、そんな彼女の積極的な姿勢を高く評価します。「彼女が一人参加するだけで、ゼミ全体が、がぜん活気づ

ミナマタ

くんです。本当に勉強熱心で、頑張り屋さんですね」。快活さと聡明さをもった彼女の魅力は、留学生仲間だけでなく日本人学生の間でも人気を集めました。

「そういえば、あれは忘れられませんねえ」と岩岡教授。ある日、ゼミで“琴線（きんせん）に触れる”という言葉が出てきた時のことでした。日本人の学生は誰も、この意味を知らなかったんです。すると、メーガンさんがソッと手を挙げて、「あのう、感動し共感することではないでしょうか」。印象に残るエピソードですが、この話にはオチがあって、「彼女はまわりの日本人の学生に恥をかかせてしまったのではないかと、しきりにすまなそうに、恥ずかしそうにしているんですよ（笑）。日本人以上に日本人らしいなあって、それがまた印象的でした」。

熊本大学で“ミナマタ”と出会う

「貴重な日本での1年間、一瞬も無駄にはしたくないのです」と言うメーガンさん。

熊本に来て一番ビックリしたのは、「講義中に学生が教室で寝ている！」。アメリカでは見たことのない姿でした。「もったいないですねえ、お金が」。自分の意志で積極的に学ぶアメリカの学生と、すべて親掛かりの日本人学生との違いを痛感した出来事でした。

岩岡教授の政治学思想史のゼミでは、石牟礼道子の文学作品や渡辺京二の評論集にも取り組みました。「難しい！」と悲鳴を上げながらも、近代日本の歴史や、水俣病のもつ意味を少しずつ学んでいったメーガンさん。日本人でも超難解な評論を、必死になって読み解こうとする姿に、まわりの学生たちの方が圧倒されたといいます。

「熊本に来て初めて“ミナマタ”を知り、すごいショックを受けました。熊本だからこそ学べる大きなテーマだと感じました」。今年春から開講された浴野教授の「医科学から見た水俣病」の講義にも参加し、難解な医学用語は「何度も、何度も書いて覚える」熱心さ。新聞記事や関係する論文も読みこなし、ぐんぐん力をつけていきました。

「水俣病のことを、今しっかりと勉強して、将来、世界に向けて発信していきたい」。日本近代化の負の遺産である水俣病。マイナスをプラスに変えていこうという水俣市の最近の動きにも、大きな関心を寄せています。「水俣には3回行きましたが、とても印象的でした。水俣の美しい自然にもふれることができました」。

メーガンさんは、モンタナに帰ってからの研究テーマに水俣病を選びました。熊本での勉強の成果をまとめて、今年末には発表したいと考えています。

日本とアメリカ、熊本とモンタナとの橋渡し役として

黒髪の国際交流会館で暮らしたメーガンさん。「窓から熊本城が見える！感激でした」。子飼商店街で、新鮮な野菜や果物を買い、自室で和食パーティーを開いたり、カラオケに出かけたり、熊本での生活を満喫した1年間でした。日本文化をできるだけ体験し、吸収したいと、大学では邦楽部に入り、三味線や沖縄のサンシンもマスターしました。特にサンシンは大のお気に入りで、沖縄に旅行した時に買ったサンシンを今も時々、つま弾いているそうです。

メーガンさんの充実した熊本での日々も今年9月で終わりました。モンタナに帰ってからも、日本・熊本で学んだことを日々の研究に生かしたいと意欲をみせるメーガンさん。

「ぜひまた、仕事で熊本に来たいです！」と瞳を輝かせます。岩岡教授も、「彼女はすばらしい逸材。ぜひ、日本とアメリカ、熊本とモンタナとの橋渡し役として活躍してほしい」と期待を寄せています。

日本人の心情を理解したアメリカ人。そういう人にこそ文化交流の「かけはし」になってほしい。

立田山のふもとにある国際交流会館。30ヶ国以上からの留学生・研究生が居住しています。

11/8(木)9(金) 第23回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム

●会場／メルパルク熊本

お問い合わせ先

熊本大学薬学部薬剤学研究室
TEL 096-371-4150　FAX 096-362-7690
E-mail:maku23@www.pharm.kumamoto-u.ac.jp
http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/maku/toppege.htm

11/13(火)～11/15(木) 第48回海岸工学講演会

“豊穣の海”有明海を大切にしていきたい‥‥。シンポジウム、懇親会、見学会への多数のご参加をお待ちしております。

●会場／メルパルクKUMAMOTO

お問い合わせ先

工学部環境システム工学科　山田文彦助教授
TEL 096-342-3546　FAX 096-342-3507
E-mail yamada@kumamoto-u.ac.jp

11/16(金) 第5回熊本大学遺伝子実験施設セミナー

16:00～18:00

「アポトーシス：プログラムされた細胞死」

発生から老化まで、ほとんどすべての生命現象に影響を与えるアポトーシスのメカニズムに関して、最新の情報が得られます。多数の方のご来聴を歓迎いたします。

●会場／熊本大学遺伝子実験施設6階講義室

お問い合わせ先

熊本大学遺伝子実験施設事務室
TEL:096-373-6501　FAX:096-373-6502
E-mail:www@gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp
HomePage http://gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp

11/16(金) 第18回熊本医学・生物科学シンポジウム

8:45～18:20

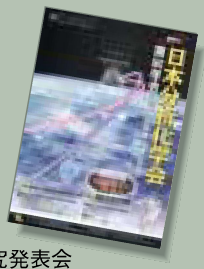
「遺伝子治療と再生医学」

●会場／熊本ホテルキャッスル

お問い合わせ先

医学部小児科学講座・遠藤文夫
TEL:096-373-5188
FAX:096-366-3471
E-mail:fendo@kumamoto-u.ac.jp

11/23(金)～11/25(日) 日本分析化学会第50年会



シンポジウム
「生命科学と分析化学」他
留学生・若手研究者国際研究発表会
ランチタイムセミナーなど

●会場／熊本大学工学部

お問い合わせ先

日本分析化学会第50年会実行委員会事務局（谷口　功）
TEL・FAX 096-342-3655
E-mail:taniguch@gpo.kumamoto-u.ac.jp
http://chem.chem.kumamoto-u.ac.jp/~bunseki/index.html

12/8(土) 第9回夢科学探検2001 熊本大学

今年も君たちの参加を待ってるよ！

10:00～16:00

●会場／熊本大学　工学部および理学部
●対象／小学生から一般の方まで

無　料

お問い合わせ・申込先

〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1
熊本大学工学部 物質生命化学科夢科学探検事務局宛
TEL 096-342-3654（堀田）　FAX 096-342-3679
Email:yume@chem.kumamoto-u.ac.jp
http//www.chem.kumamoto-u.ac.jp/act/yume_index.html

当日受付可。ただし、11月30日（金）までにはがき等で参加申し込みされた方には、無料で資料をお送りいたします。なおその際、参加者の氏名（同伴者を含む）、年齢、職業（学校名、学年）、連絡先などを明記してください。

11/2(金)～11/4(日) 熊粋祭（ユウスイサイ）・本九祭・薬学展

模擬店、展示、シンポジウム、体験講座、野外ステージ、その他各キャンパスでイベントが盛りだくさん。遊びに来て下さい。
（下記は一部です）

■ 熊粋祭（黒髪キャンパス）

2日

13:30～15:00　附属図書館貴重資料展
公開講演会「中世阿蘇社の理想と現実」

3日

15:00～　上野 未来トークショー
10:00～16:00　工学部祭
工学部探検2001、もの・くり・2001
13:00～17:00　シンポジウム（法学部）
～国民の司法参加　陪審か参審か、裁判制度をめぐって～
13:00～15:00　ミニ運動会

4日

13:00～16:00　模擬裁判（法学部）
19:00～　花　火

■ 薬学展（薬学部キャンパス）

4日

あなたも一日薬学部生
薬学展2001「あなたが主役」
公開実験・薬膳料理
公開授業、薬草園ツアーなど

■ 本九祭（医学部・医技短キャンパス）

3日

15:00～　本橋　馨氏 講演会
ミス本荘、クイズ大会

3・4日

1日医学部体験講座他

1/10(木) レクチャーコンサート

クラシックを楽しみませんか。

18:30～20:00

「近・現代音楽の夕べ～ スクリアビンのピアノ音楽」

●会場／くすの木会館レセプションルーム（熊本大学内）
●出演／袴田　和泉（ピアノ・教育学部助教授）
　　木村　博子（解説・文学部助教授）

お問い合わせ先

クラシック研究会（文学部木村研究室内）
TEL・FAX 096-342-2850
E-mail:kimura@let.kumamoto-u.ac.jp

薬学部ISO14001取得 国立大学で取得2番目

熊本大学薬学部は、平成13年9月6日付けで環境管理システムの国際規格「ISO14001」を取得しました。

薬学部では、教育研究の中で、学生及び教職員の「環境保全の意識高揚」を目的とし、「電気の使用量削減」「コピー用紙、コンピュータ用紙類の使用量削減」「廃棄物の分別」「毒物及び劇物等の薬品の管理強化」の運用管理項目を設け、それぞれ達成目標を定めた環境マニュアルを策定しています。

これら取り組みを総合的、組織的に推進し、地域社会の一員として、環境に配慮したエコ・キャンパスを一層発展、充実させたいと考えています。

また、現在、工学部物質生命化学科においても、認証取得に向け準備を進めております。

生涯学習教育研究センターより

無料　お問い合わせ先

熊本大学生涯学習教育研究センター
TEL 096-342-3121
E-mail sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

「知のフロンティア講座」

21世紀は大学発の新しい産業の育成によって我が国を活性化する時代になると考えられています。教育・研究に加え、知の創造に基づいた社会貢献が求められています。

時間 毎回14:00〜15:30

11/10（土）**第3回**
「大学とベンチャービジネス」
谷口　功（工学部教授）

12/1（土）**第4回**
「半導体・ナノテクノロジーが開く IT社会の未来像」
久保田　弘（衝撃・極限環境研究センター教授）

12/15（土）**第5回**
「医療の未来ー高齢社会における保健・医療・福祉の統合ー」
二塚　信（医学部教授）

1/26（土）**第6回**
「ITと建築設計ーネットワークで広がる設計と教育の可能性ー」
両角　光男（工学部教授）

「歴史を旅する〜その（1）中国」

旅する感覚で歴史を楽しんでみませんか。映像や資料をふんだんに組み合わせてわかりやすく中国を考える講座です。　時間 毎回19:00〜20:30

11/9（金）**第1回**
「日中比較文学の旅ー西湖の柳（1）ー」
金原　理（文学部教授）

11/16（金）**第2回**
「日中比較文学の旅ー西湖の柳（2）ー」
金原　理（文学部教授）

11/22（木）**第3回**
「魯迅と近代中国」
吉川　榮一（文学部助教授）

11/29（木）**第4回**
「中国文学にみられる帰去来」
朴　美子（文学部助教授）

12/14（金）**第5回**
「現代中国映画事情ー『黄色い大地』（1984）から『初恋のきた道』（2000）へー」
田中　雄次（文学部教授）

新・家族論
〜新しい時代の家族の課題を問う〜

家族という切り口で、新しいよりよい社会のあり方を考えてみます。　時間 毎回19:00〜20:30

11/2（金）**第3回**
「子育て支援」
柴山　謙二（教育学部助教授）

11/16（金）**第4回**
「ライフサイクルと生活設計」
鳥飼香代子（教育学部教授）

12/7（金）**第5回**
「家庭介護」
尾山タカ子（医療技術短期大学部助教授）

お茶の間で熊本大学を見る！聞く!! 開催中

●RKKテレビ講座
11/4〜12/23　毎週日曜　午前11：00〜11：30

●RKKラジオ講座1197kHz
9/2〜12/2　毎週日曜　午前9：30〜9：50

申込方法

お電話、FAX、E-mail、ハガキにて下記へお申し込みください。（住所・氏名・電話・FAX番号をお知らせ下さい。）
熊本大学総務部総務課生涯学習係
〒860-8555　熊本市黒髪2丁目39番1号TEL096-342-3121　FAX096-342-3110　E-mail sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

はじまってます！ 市町村との共同研究

熊本大学と鹿本町の共同研究がスタートしました。大学と県内の自治体が連携して、生涯学習プログラムや人材育成などのあり方を研究していく初めてのケースです。そこで生涯学習教育研究センターの上野助教授と鹿本町の豊田義幸生涯学習係長にインタビューしてみました。

―そもそも共同研究が始まる経緯はどうだったんですか？

（上野）　4月に開設した生涯学習教育研究センターが、市町村に生涯学習・研究プログラムの共同研究を呼びかけました。そして話がまとまったのが鹿本町です。大学の知的資源を地域に還元していくためには市町村と連携し一緒になって実践的に取り組んでいくのが一番、だから共同研究なんです。

―鹿本町さんはどうして今回、熊本大学と一緒にと思われたのですか？

（豊田係長）　鹿本町は、生き生きと活気あふれる教育の街づくりを目指しています。子どもからお年寄りまで町の人が誰でも利用できるように生涯学習を進めていきたいと考えています。大学には知的資源があります。生涯学習のプロに聞かない手はありません。地方自治体第一号というのも、私たちに会わせて仕組みが作られていくことであり、大学と一緒に模索しながらやっていけていいと思っています。新聞を見た近辺の町から「また新しいことをやってるみたいだね」という声もありました。鹿本町は新しもん好きなんですよ（笑）。

―実際にスタートしてみていかがですか？

（豊田係長）　熊本大学は県内で一番いい大学で、雲の上というか、市町村からすると県のまた一つ上の国レベルの機関といった印象でした。しかし実際に来てセンターの先生方と接してみると、意外とざっくばらんです。

（上野）　いろいろなニーズを出していただきたいと思っています。熊本大学は総合大学ですから、幅広いニーズに対応できます。例えば生涯スポーツなんかもいいんじゃないですか。また熊本大学の資源に限らず、他の機関も含め最も市町村のニーズにあったメニューを一緒に研究していきたいと思っています。

他の市町村からの要請にも応えていきたいと思いますので、遠慮なくお問い合わせ下さい。

入試情報

■平成14年度入学者選抜実施日程■

選抜区分			願書受付期間	試験日
大学入試センター試験			13／10／9(火)～10／19(金)	14／1／19(土)・20(日) 追試験 14／1／26(土)・27(日)
個別学力検査	前期日程	文学部 教育学部 法学部 理学部 医学部 薬学部 工学部	14／1／28(月)～2／6(水)	14／2／25(月) ＊
個別学力検査	後期日程	文学部 教育学部 法学部 理学部 医学部 薬学部 工学部	14／1／28(月)～2／6(水)	14／3／12(火)
推薦入学	大学入試センター試験を課さない	文学部 教育学部〔生涯スポーツ福祉課程〕 法学部 理学部〔生物科学科〕 薬学部	13／11／12(月)～11／19(月)	13／12／8(土)
推薦入学	大学入試センター試験を課す	教育学部 〔中学校教員養成課程〕 （国語、理科、技術、家庭） 〔特別教科（看護）教員養成課程〕 〔養護教諭養成課程〕 〔地域共生社会課程〕 理学部 〔物質化学科〕 〔地球科学科〕 医学部 工学部	14／1／21(月)～1／25(金)	14／2／9(土)
特別選抜	帰国子女	法学部	14／1／28(月)～2／6(水)	14／2／25(月)
特別選抜	帰国子女	工学部	13／10／9(火)～10／15(月)	13／11／9(金)
留学生特別選抜	私費外国人	全学部	14／1／28(月)～2／6(水)	14／2／25(月) ＊

＊・・・前期日程及び私費外国人留学生特別選抜において、教育学部中学校教員養成課程（音楽、美術、保健体育）の実技検査は、2月26日(火)に実施する。

■大学院入試日程■

選抜区分		願書受付期間	試験日
文学研究科	文学（修士／社会人含む）秋季日程	13／9／10(月)～9／14(金)	10／1(月)・2(火)
文学研究科	文学（修士／社会人含む）春季日程	14／1／21(月)～1／25(金)	14／2／18(月)・19(火)
教育学研究科	教育学（修士）	13／8／1(水)～8／7(火)	9／4(火)
教育学研究科	教育学（修士）第2次	14／1／8(火)～1／11(金)	14／2／1(金)
法学研究科	法学（修士／社会人・外国人含む）第1期	13／8／1(水)～8／7(火)	9／7(金)・8(土)
法学研究科	法学（修士／社会人・外国人含む）第2期	14／1／21(月)～1／25(金)	14／2／8(金)・9(土)
医学研究科	医学（博士）秋季日程	13／7／30(月)～8／3(金)	9／3(月)・4(火)
医学研究科	医学（博士）春季日程	14／1／21(月)～1／25(金)	14／2／13(水)・14(木)
薬学研究科	薬学（博士前期／推薦）	13／7／2(月)～7／5(木)	7／10(火)
薬学研究科	薬学（博士前期／社会人含む）	13／8／6(月)～8／9(木)	8／21(火)
薬学研究科	薬学（博士前期／社会人含む）第2次	13／11／26(月)～11／30(金)	12／11(火)
薬学研究科	薬学（博士後期／社会人含む）	14年1月中旬	14年3月上旬
薬学研究科	薬学（博士前期／10月入学／外国人・社会人特別選抜）	13／8／6(月)～8／9(木)	8／21(火)
薬学研究科	薬学（博士後期／10月入学／外国人・社会人特別選抜）	13／8／6(月)～8／9(木)	8／21(火)
自然科学研究科	自然科学（博士前期／社会人含む）	13／7／26(木)～8／1(水)	8／30(木)・31(金)
自然科学研究科	自然科学（博士前期）第2次	14／1／8(火)～1／11(金)	14／1／31(木)・2／1(金)
自然科学研究科	自然科学（博士前期）外国人特別選抜	14／2／12(火)～2／15(金)	14／2／28(木)・3／1(金)
自然科学研究科	自然科学（博士前期／社会人含む）3年次を対象とする選抜	14／2／28(木)～3／1(金)	14／3／6(水)・7(木)
自然科学研究科	自然科学（博士後期／社会人含む）	13／7／26(木)～8／1(水)	8／23(木)・24(金)
自然科学研究科	自然科学（博士後期／社会人含む）第2次	14／1／21(月)～1／25(金)	14／2／14(木)・15(金)
自然科学研究科	自然科学（博士後期／10月入学／社会人・外国人・帰国子女特別選抜）	13／7／26(木)～8／1(水)	8／23(木)・24(金)

■編入学・専攻科・別科入学試験日程■

選抜区分	願書受付期間	試験日
文学部（3年次 編入学）	13／10／9(火)～10／15(月)	11／10(土)
法学部（3年次 編入学）	13／10／9(火)～10／15(月)	11／10(土)
理学部（3年次 編入学／推薦含む）	13／6／11(月)～6／14(木)	6／23(土)
工学部（3年次 編入学／推薦入学）	13／6／11(月)～6／14(木)	6／29(金)
工学部（3年次 編入学／一般選抜）	13／7／26(木)～8／1(水)	8／20(月)
特殊教育特別専攻科	14／2／12(火)～2／15(金)	14／3／1(金)
養護教諭特別別科	13／12／10(月)～12／14(金)	14／1／11(金)

●お問い合わせ先　学生部入試課　TEL.096-342-2146

あなたの知的好奇心、熊本大学で咲かせませんか?!

大学は、いつでもだれでも使え、そして活用法も人それぞれです。あなたも大学活用を考えてみませんか?
最近は、キャリアアップを目的に大学を活用する社会人も増えています。

尾田その子さん

熊本大学文学部卒業。KKT報道制作部記者を経て、4月から大学院文学研究科に通っている。

実際に社会人入学している人の声を聞いてみました。

—どういう研究をしているんですか？

「臓器移植など生命倫理のドキュメント番組に携わったのがきっかけで、医療・情報およびその調査・研究法をテーマにするようになりました。人間科学専攻の応用倫理論や地域科学専攻の医療・情報等の科目を併せて履修することで、テーマにあった研究をすることができます」

—他にどういう方がいらっしゃいますか？

「同じようなテーマで研究している方に、看護婦さんがいらっしゃいます」

—学部生の頃と比較して、大学はどうですか？

「社会経験を経た現在のほうが、教育、経済、法制度といった現実にひきつけて考えることができているように思います。そして、大学改革の必要性がいわれる今の方が"大学がおもしろい"と感じます」

—社会人入学を通して思うことは？

「全力で仕事をする時期があって、家族との時間を大切にしながらそれまでと違った経験をする時期があって、そういう流れがあるんだと最近思うようになりました。大学に通いながら自分の幅を広げる、そのことで人生はより豊かになると考えています」

「問題意識を持ち続ける、そういう人生を送りたいと思っています」

熊大 INFO

新聞で見る熊本大学

10／4
朝日新聞

「文科省大学トップ30」予想

10／7
熊本日日新聞

医学的検証を

8／29
熊本日日新聞

韓南大法科と協定
情報交換や短期留学

8／31
熊本日日新聞

熊大院に文系博士課程
社会政策の人材育成

9／7
熊本日日新聞

大津町の佐々貴敬さん
80歳で工学博士号
「勉強の成果 形に残せた」
熊本大では最高齢取得

9／25
熊本日日新聞

草原の助っ人 何でも食べる通産子
植地切りに馬活用
雑草を省力化狙い実験

すごい！
80歳で工学博士号

9月10日の学位授与式後も、佐々貴さんは、熊大の客員研究員という肩書きで生コンスラッジの有効利用に関してさらに実験研究に励んでおられます。

また、研究室の卒業研究では後進の指導にもあたり、益々お元気です。

編集後記

■国内外で悲しい出来事や恐ろしいことが多く生じています。その上、景気は良いとは言えない状態です。大学においてもこれから変革が生じることになり、どういうことになるのかまだわからない状況です。数ヶ月前、大学生の保護者の方とお話する機会がありましたが、保護者の方が「もっと明るい話をしましょうよ。」と言われた時には、ハッとしました。確かに明るい話もあるのに、どうも暗い話に目が向きがちになってしまいます。

今回の「熊本大学に聞いてみたい!!」のコーナーでは、私が所属する教育学部が担当しました。今、教育においても明るい話題が少ない中、4人の高校生とお話する機会がありました。話し方にはまだぎこちなさが残るものの、その8つの瞳には若々しさがあり、私は明るい気持ちになりました。彼らのような若者が数十年後の日本、世界、地球を明るいものにしてくれることに期待が持てました。明るいことはとても素敵なことです。

最後ではありますが、「熊本大学に聞いてみたい!!」のコーナーでは、教育学部の特別別科（看護）教員養成課程の4年次の学生達に協力を得ました。ここに感謝します。

（編集委員：塚本光夫）

編集委員

教育学部	助教授・塚本光夫
医学部	教授・西　勝英
工学部	教授・濟木弘行
生涯学習教育研究センター	助教授・上野眞也（部会長）

事務局／企画広報室
文　責／編集部会

Illustration/ mari KAWATA

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

● 宛先 ●
熊本大学総務部企画広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL：096-342-3119 FAX 096-342-3007
sohkoho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学広報誌 熊大通信
2001年11月発行　編集／熊本大学広報委員会　発行／熊本大学企画広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号　TEL.096-342-3119　FAX.096-342-3007　ホームページ http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html

産学連携情報

熊本大学の産学連携は10領域に
約300名の研究者が携わっています。
産学連携について、「興味がある」、
「もっと詳しく知りたい」という方に
向けて、インターネットで
より詳しい内容を紹介しています。

情報・通信研究
新素材・材料研究
エネルギー研究
生産技術研究
生体・医療研究

http://www.kumamoto-u.ac.jp/contents/JOINT/k-link/k-link.htm

バイオ関連研究
リサイクル研究
環境関連研究
公共政策研究
生活関連研究

研究交流メニュー

- ●共同研究
- ●受託研究
- ●受託研究員
- ●技術相談
- ●技術研修等
- ●講師派遣

熊本大学産学官連携研究推進機構では、蓄積された研究成果を広く学外に公開し、情報を提供していくためのメディアのひとつとして、「K-LINKニュース」を発行しています。

インフォメーション

11月9日（金）
13:00～19:00
産学官連携シンポジウム
「バイオ技術とニュービジネス」

11月30日（金）
13:00～17:00
講演及びパネルディスカッション
「産学官連携と大学の将来」

お問い合わせ

熊本大学リエゾンオフィス
（総務部研究協力課）
〒860-8655　熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL 096-342-3145／3146　FAX 096-342-3149
E-mail liaison@jimu.kumamoto-u.ac.jp

メールでのご意見・ご要望をお待ちしています。お気軽に!

PRINTED WITH SOY INK™ 印刷インキは大豆油インキを使用しています。
R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。